

「たき火からの火災」におけるデータ分析

昨年、本組合管内では 14 件のたき火からの火災が発生しました。（2019 年の火災総件数 105 件中 13.3%）

たき火からの火災を予防するため、データ分析結果と、具体的な事例を示し注意喚起を図ります。

1 原因分類

火災に至ったたき火の原因を分類すると、①強風時にたき火を行ったため、②確実に消火をしなかったため、③たき火を放置してその場を離れたため、の3つに分類もしくはこれらの複数が重なったことによって火災が発生しています。

いずれも不適切な行動によって火災を招いたと言えます。

2 過去 10 年間のデータ分析（2010 年～2019 年）

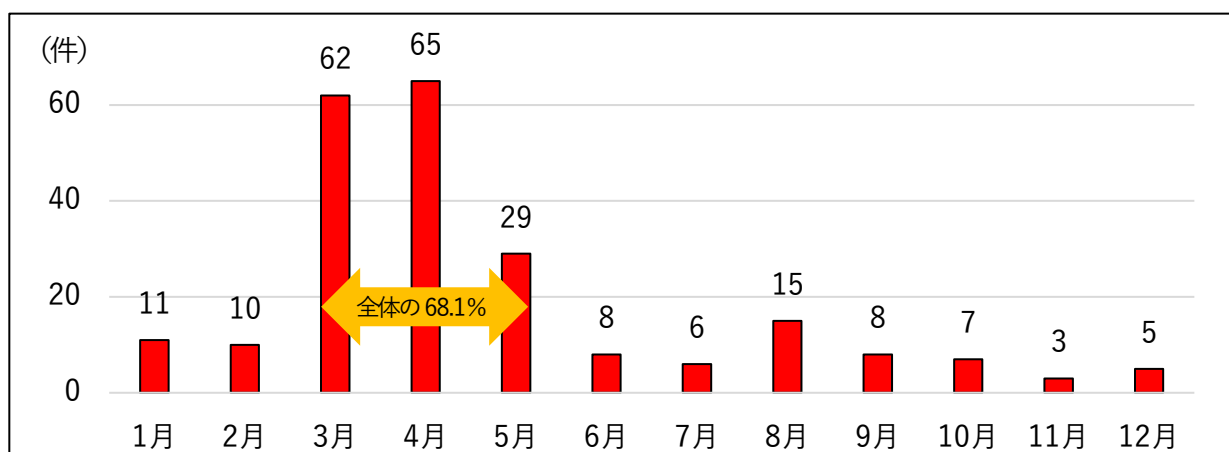
※ 小数点を含む数値は、小数点第 2 位を四捨五入して表記

（1）月別の出火状況

たき火からの火災発生状況を月別にみると、3月から5月にかけて集中していることがわかります。（全体の 68.1%）

これは空気が乾燥し風が強い気象状況と、農作業の一環として行われる田畑でのたき火を行う時期が重なっていることが大きな要因として考えられます。

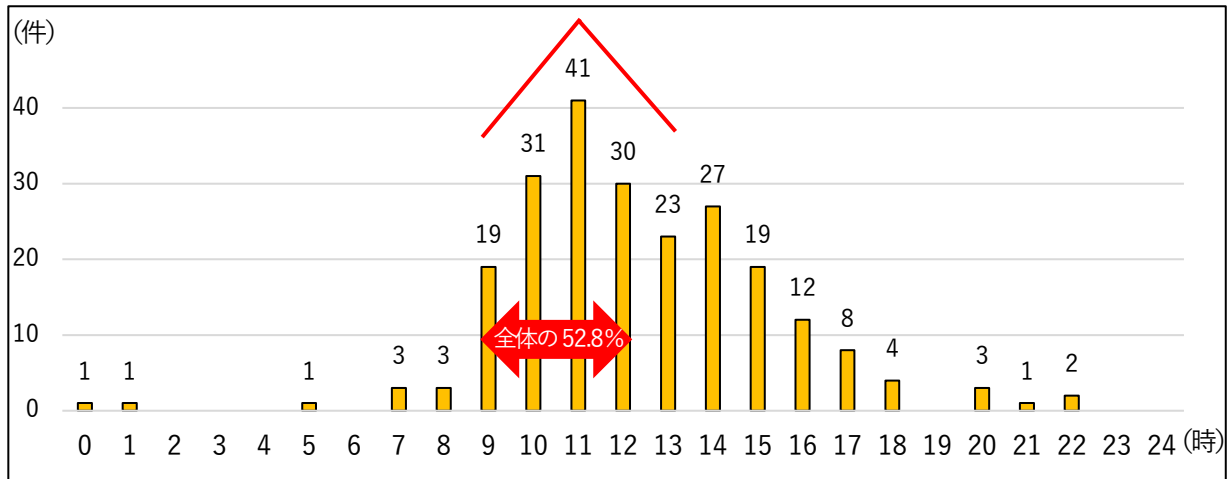
また、火災に至ったたき火のほとんどは、火災予防条例上必要な届出がなされずに行われていたことから、届出の必要性の周知徹底が求められます。



(2) 時間帯別の出火状況

たき火からの火災発生状況を時間帯別にみると、11時台をピークに、9時台から12時台に集中していることがわかります。(全体の52.8%)

日中の日が差している時間帯は、炎が見えづらく消したつもりが消えていない場合があります注意が必要です。また、火をつけた後にその場を離れ火災に至ったケースもあります。



(3) たき火行為者の年代別

火災に至ったたき火行為者を年代別にみると、60歳代が最も多く27.9%、次いで70歳代が21.3%、50歳代が19.7%と続き、50歳代から70歳代の年代区分で全体の7割近くを占めていることがわかります。

